

別記第1号様式(第7関係)

## 会 議 録

|                  |       |   |
|------------------|-------|---|
| 附属機関又は<br>会議体の名称 |       | 第4回 第八期生涯学習推進協議会  |
| 事務局(担当課)         |       | 学習・スポーツ課  |
| 開催日時             |       | 令和6年11月11日(月) 18時00分～20時00分   |
| 開催場所             |       | 豊島区役所 510 会議室   |
| 議 題              |       | 1. 開会<br>2. 地域文化創造館アンケート結果について<br>3. 豊島区生涯学習推進ビジョン素案について<br>4. パブリックコメントの実施について<br>5. 閉会                        |
| 公開の<br>可否        | 会 議   | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開      傍聴人数 3人 |
|                  | 会 議 録 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開              |
| 出席者              | 委 員   | 高井正会長、齋藤知明委員(オンライン参加)、林田萌郁委員、<br>荘司哲夫委員、鈴木晴美委員、野瀬博委員<br><div style="text-align: right;">計6名</div>               |
|                  | 事 務 局 | 文化商工部長、学習・スポーツ課長、学習・スポーツ課職員3名   |

# 審 議 経 過

## 1. 開会

### 2. 地域文化創造館アンケート結果について

#### □地域文化創造館の認知度について

- ・「地域文化創造館」という名前が馴染みにくく、生涯学習の施設であることがイメージできない。他区では、生涯学習センターという名称であることがある。また、親しみやすい愛称をつけている自治体もある。例としては、足立区の「学びピア」、文京区の「アカデミー文京」、板橋区の「まなぼーと」がある。来館のハードルを下げの意味では、ネーミングは大切だと思う。
- ・ブックカフェ来館者は区外の方が多いので、地域文化創造館の認知度が低いのは仕方がない。
- ・ブックカフェ来館者に対して、地域文化創造館を説明する際、「公民館みたいなところ」と表現すると理解をしてもらいやすい。公民館という名称には、共通イメージがあるようだ。
- ・アンケートの母数を増やした方がより信憑性が高くなる。今回のアンケートは母数が少ないことを踏まえても、深刻な結果と受け止める。中でも、PTA 役員の方はアンテナを広く張っている傾向があるにも関わらず、認知度が低いことは問題と感じる。
- ・利用していない理由が「利用の仕方が分からない」というのは、周知不足が原因である。
- ・地域文化創造館が知られていないということは、「つどう・つながる・つくりだす」という方針の言葉も知られていないと推測する。
- ・「つどう・つながる・つくりだす」がイメージできるような、慣れ親しみやすい愛称を考えてはどうか。
- ・行政は広報が下手だとかつてより言われている。大学では、担当している科目で、自治体広報についてレポートの課題としている。学生が自治体広報をサポートする仕組みがあれば、お互いにとって良いと思う。
- ・アンケート結果をただ素案に反映するだけでなく、具体的な策を考えて欲しい。

#### □居場所としての機能について

- ・このアンケートから、若者は学校以外の居場所が欲しいことが読み取れる。
- ・今後、若者自身が地域文化創造館で居場所をつくりあげる可能性を感じた。
- ・西東京市では、数年間をかけて、全公民館に Wi-Fi を設置した。公民館ロビーに Wi-Fi が設置されたことで、高校生がロビーに集うようになり、高齢者と若い人がひとつのテーブルに座っている光景が見られるようになった。

- ・ロビーが居場所になることで、ロビーにいる方に何かしらの働きかけをするきっかけとなる。

### 3. 豊島区生涯学習推進ビジョン素案について

#### □目的について（第1章 P.1）

- ・「society5.0（超スマート社会）」という表記が正しいのか確認して欲しい。
- ・「SDGs」と「ウェルビーイング」について加筆した方が良いと思う。

#### □ビジョンの位置づけについて（第1章 P.2）

- ・三角形の頂点に基本構想があり、その下に個別計画がぶら下がっているが、三角形の構造が逆ではないか。
- ・位置づけを示す図は様々なものがある。「基本構想」が豊島区のまちをどのようにしていくのか、法に例えると憲法のようなものであり、三角形の一番上に図示されている。
- ・このような位置づけの図示は、豊島区のスタンダードであり、他計画でも同じ表記である。（事務局より）
- ・教育ビジョンと生涯学習推進ビジョンの関係性はどうなっているのか。
- ・教育ビジョンに記載されていない事項を生涯学習推進ビジョンで補足している。図書館基本計画やスポーツ推進計画についても、生涯学習推進ビジョンと近い計画である。また、今年度、子ども・若者計画も策定作業を行っている。そのような様々な計画があるなか、基本構想・基本計画に基づき、関連計画が同じ方向を向いていけるよう、整合・連携を図っていく（事務局より）。
- ・豊島区生涯学習推進ビジョンが、個別計画の枠から外れていることに違和感があり。以前の表記が分かりやすかったと思う。

#### □ブックカフェの取組事例について（第2章 P.28）

- ・「プロジェクトメンバー」という記載が分かりにくいので、「利用者」と記載したほうがイメージしやすいと思う。

#### □重点取組みについて（第4章 P.26～35）

- ・何を取り組むのかは明確に書かれているが、どのように取り組むのかが書かれていない。
- ・としま発見カタログは、具体的なことが記載されていてイメージをしやすいが、より多くの方の手に触れるであろう生涯学習推進ビジョンにも具体例を記載した方が良いと思う。
- ・豊島区子ども・若者の実態・意識に関する調査報告書（令和6年3月）において、

世代別の居場所に対するアンケート結果が公表されている。これを反映した方が良いと思う。

- ・重点取組みを3つ掲げていることは、分かりやすく良いと思っている。このビジョンの特徴でもある。
- ・「つどう・つながる・つくりだす」と重点取組みが一对一对應ではなく、重点取組みの中にも、「つながる・つながる・つくりだす」が存在するイメージである。
- ・本ビジョンは、区民全体に向けた方針であり、生涯学習に関係する全ての人に、重点取組みの考え方を共有し、目標の達成に向けて学び合うことが大切である。それにより、生涯学習全体を底上げすることにつながる。重点取組みの考え方は、この内容を記載した方が良いと思う。
- ・現状値と目標値はあくまで参考値と捉える程度が良いと思う。取組みを進めていく中で、目標値が変わる可能性がある。
- ・あくまでビジョンなので、具体的なことを記載するのではなく、この考え方を生涯学習を担う人に共有することが大切と考える。

#### □重点取組みの指標について（第4章 P.26～35）

- ・現状値、目標値が空欄の箇所は、今後適切な値を設定する（事務局より）。
- ・目標値に回数を設定すると、回数を増やすことが目標になってしまう。回数ではなく、“質”を問うような指標にした方が良いと思う。
- ・活動指標の回数を増やすことで、成果につながっていくと考えている。定量評価だけでなく定性評価も大切と考えており、例えば、利用者満足度を設定する等を検討する。どのような基準が望ましいか委員の皆さまからアドバイスを頂きたい（事務局より）。
- ・第七期生涯学習推進協議会では、定性評価をメインに議論してきたところである。満足度が測れる指標、測れない指標があるだろう。一つ一つ分析が必要である。
- ・例えば、「外国人にとって暮らしやすいまちであると感じる」という区民の割合」という指標は、あくまで日本人を感じるものであり、外国人に対してどのように評価をするかが課題である。
- ・重点取組みにのみ指標を設定しているが、「つどう・つながる・つくだす」を方針として掲げるのであれば、施策の方向性11個それぞれに対して評価項目を設定するのが望ましいのではないかと。施策の方向性11個を今後5年間で達成するのであれば、例えば、1年ごとに取り組み内容を決めて、段階を踏んで進めてはどうか。
- ・通常の計画であれば、様々な事業を盛り込み、それぞれの進捗を管理することで評価を行うが、あくまで「ビジョン」として方向性を示すものであるため、前ビジョンでは指標を設定していなかった。それが振り返りの支障となったこともあり、次期ビジョンでは、重点取組みに対して指標を設定することで、計画とビジョンの中

間的な位置づけとなっている。施策の方向性 1 1 個それぞれに評価項目を設定する場合には、期間を決めて集中的に検討する必要がある。

- ・アウトプットとアウトカムが混ざって設定されているイメージ。そこの整理が必要である。
- ・今年度、本区において、様々な計画の策定作業を行っているが、生涯学習推進ビジョンは、主体的に学んでいただきたい思いを込めて、「ビジョン」という位置づけにした。そういった中でも、つどう・つながる・つくりだす、それぞれにおいて取組みの現状と課題を洗い出し、今後 5 年間で重点的に取り組むべきことを示した。今回、振り返りが難しかったこともあったため、重点取組みについては目標となる指標を設定した。本来であれば、全ての事項に対して目標値を設定するのが望ましいが、「ビジョン」という性質上、このような方式にしたところである（事務局より）。

□評価体制について（第 5 章）

- ・最近では、「PDCA」サイクルではなく、リサーチの R を付けて「RPDCA」サイクルを用いることが多いと思う。

□第七期生涯学習推進協議会の成果について

- ・「学びスタイル発見カタログ Vol.8」にて成果を公表する予定である（事務局より）。

4. パブリックコメントの実施について

5. 閉会

|       |   |
|-------|---|
| 会議の結果 | <ul style="list-style-type: none"><li>・生涯学習推進ビジョン素案の内容については、後日事務局にお知らせを依頼した。</li><li>・パブリックコメントを実施し、寄せられた意見については、生涯学習推進協議会委員と協議のうえ素案に反映させる。</li></ul> |
|-------|---|

|          |                                |
|----------|--------------------------------|
| 提出された資料等 | 〈配布資料〉                         |
|          | 資料 No. 4 - 1 地域文化創造館アンケート結果    |
|          | 資料 No. 4 - 2 豊島区生涯学習推進ビジョン素案   |
|          | 資料 No. 4 - 3 豊島区生涯学習推進ビジョン（概要） |
|          | 資料 No. 4 - 4 パブリックコメントの実施について  |